

2015-16 COC+ REPORT

地域創生に応える実践力養成
ひょうご神戸プラットフォーム事業

INDEX

COC+事業とは？	02
1 事業概要	
事業概要	03
実施体制	04-05
教育プログラムについて	06-07
2 活動報告	
事業全体の活動報告	08-09
歴史と文化領域	10-11
自然と環境領域	12-13
子育て高齢化対策領域	14-15
安心安全な地域社会領域	16-17
イノベーション領域	18-19
3 地元定着に関する取組	
地元定着に向けた活動	20
なりわいカフェ	21
Mラボ事業、工学フォーラム	22
4 雇用創出に関する取組	
神戸大学篠山市農村イノベーションラボ	23
5 活動記録	24-25

CO_C+事業とは?

地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等の観点から、大学が果たすべき役割には、きわめて大きな期待が寄せられています。

文部科学省では、平成25年より、「地(知)の拠点整備事業(COC)」を公募し、「地域のための大学」として各大学の強みを生かしつつ、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできました。

平成27年からは、「地方創生」を推進する観点から、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」として、全国から42件の事業が採択されました。本事業は、COC事業を発展させて、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

なお、COCとは、「Center of Community」の略です。



地(知)の拠点整備事業

大学等が自治体等と連携し、地域を志向した「教育・研究・地域貢献活動」を一体的に全学的に進める取組を推進

- 兵庫県立大学…ひょうご・地(知)の五国豊穰イニシアティブ
- 神戸市看護大学…地域住民と共に学び、共に創るコミュニティケアの拠点づくり
- 園田学園女子大学…〈地域〉と〈大学〉をつなぐ 経験値教育プログラム

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

地方創生の推進・若年の東京一極集中を解消するため、地域企業等とのマッチングや若者の定着強化を図る大学群、自治体、地域の企業等との連携を必須とし、地域を担う人材を育成するための教育改革を行う取組を支援

地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム事業協働機関

大学(神戸大学、兵庫県立大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
 行政(兵庫県、神戸市)
 企業等(神戸商工会議所、兵庫県経営者協会、兵庫工業会、神戸新聞社)

事業概要

1. 地域創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォームとは?

文部科学省の公募事業である、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に、兵庫県から、神戸大学が中心となって申請した「地方創生に定める実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」が採択されました。本事業には、神戸大学を含め、県内で平成25年度よりCOC事業を推進している、兵庫県立大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学の3つの大学と、自治体から、兵庫県、神戸市、産業界から、神戸商工会議所、兵庫県経営者協会、兵庫工業会、神戸新聞社が参画しています。産学官の事業協働機関(ひょうご神戸プラットフォーム協議会)が一体となって地域の課題解決に資する人材育成と若者の地元定着を目指します。

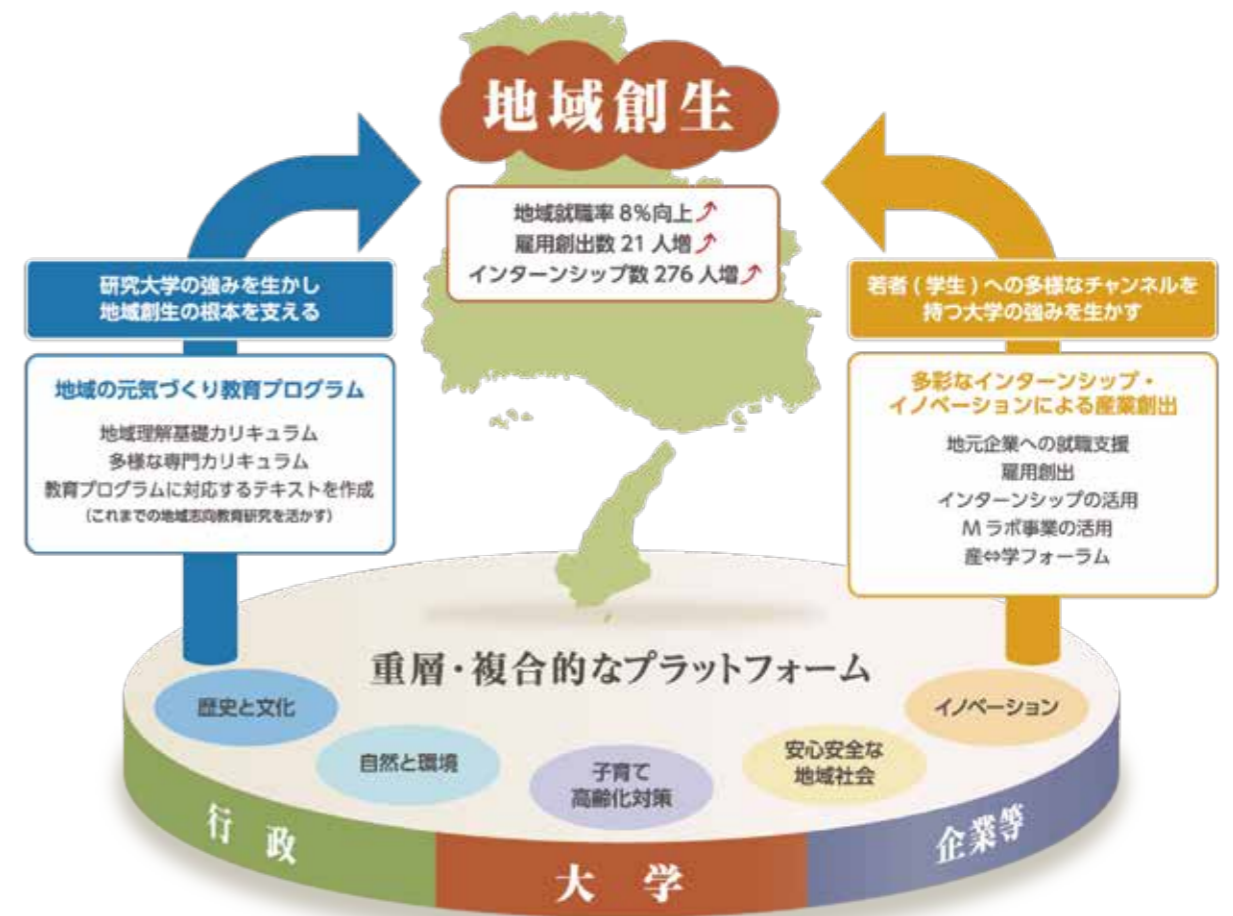
2. 事業のポイント

ポイント1 5つの領域とプラットフォームの構築

神戸大学及び県内COC大学等がプラットフォームを構築し、各大学がこれまで培ってきた地域社会形成のための教育研究の成果を持ち寄ります。これらを広く波及させるため、「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の領域ごとに共同してテキストを作成し、教育プログラムを開発します。自治体、企業等の事業協働機関は、教育プログラム実施に協力します。

ポイント2 若者の地元定着

事業協働機関と連携し、様々なインターンシッププログラム等を通して学生が地元で働くことを体験します。新しく開発する地域志向科目の学びを通して、学生は地域への理解を深め、地元で暮らすこと、働くことの魅力を発見します。



実施体制

1.事業の実施体制

全ての事業協働機関が参加する「ひょうご神戸プラットフォーム協議会」を平成28年2月24日付けで設置し、事業を行うための協議を行っています。協議会を開催し、事業方針や年度計画、予算に関する検討を行いました。また、領域ごとの教育プログラムの開発に対応するため、領域毎に大学間会議等を開催し、関係教員と実質的な検討を行っています。

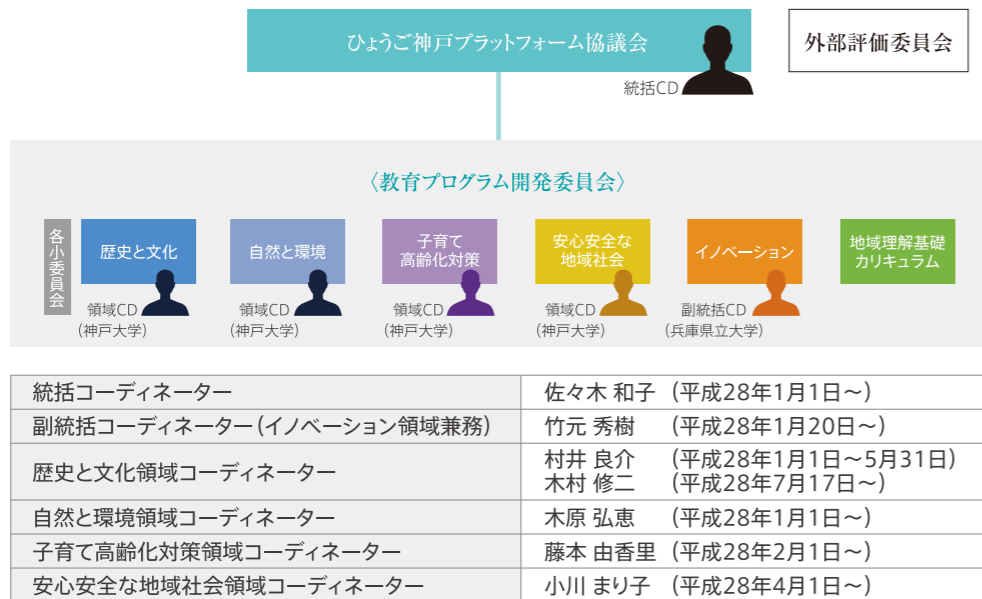
また、事業実施のために、統括コーディネーター、副統括コーディネーター、領域コーディネーターを神戸大学及び兵庫県立大学に配置し、事業の推進を図っています。

ひょうご神戸プラットフォーム



2.領域ごとの教育プログラム開発体制

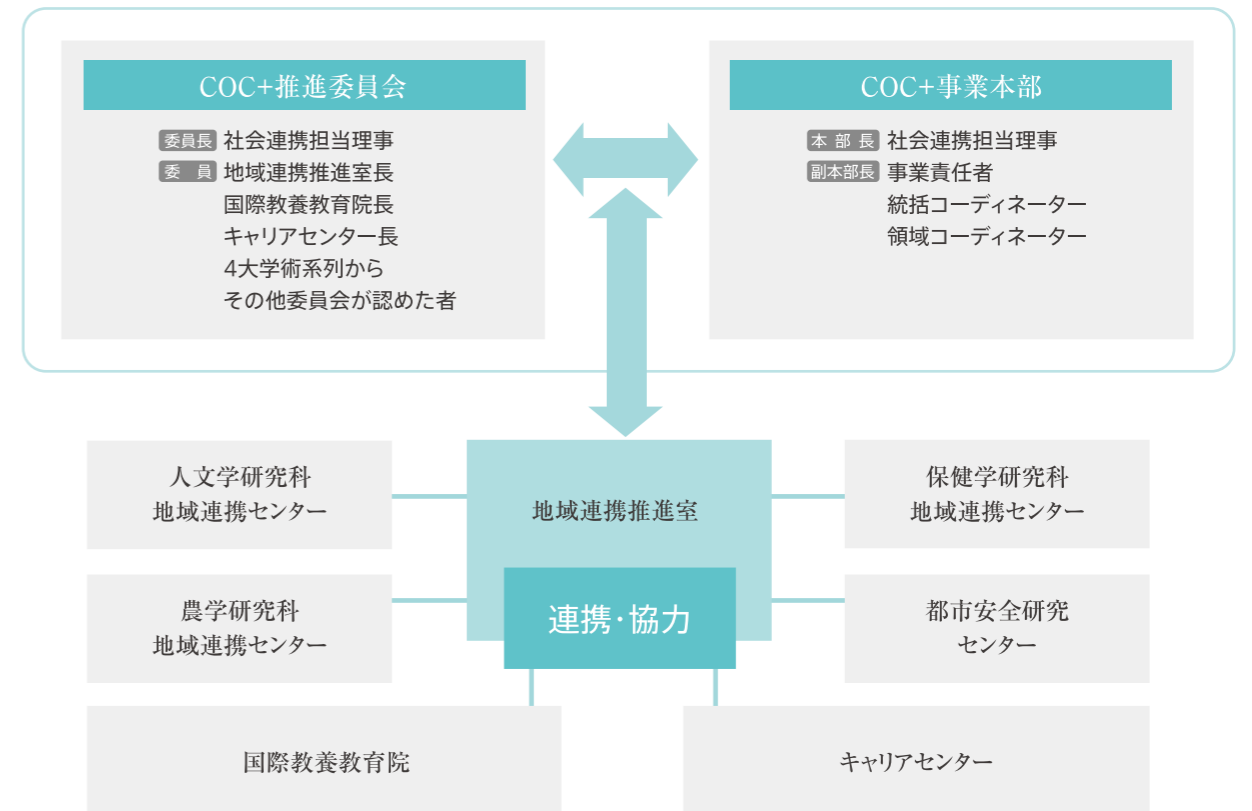
地域課題を「歴史と文化」、「自然と環境」、「子育て高齢化対策」、「安心安全な地域社会」、「イノベーション」の5領域に分け、領域ごとにコーディネーターをおいて事業に取り組んでいます。神戸大学においては各研究科地域連携センター等において領域ごとの教育プログラムの実施やテキストの開発を行っており、学内の多数の教職員を巻き込みながら進めています。



3.神戸大学の実施体制

学長のリーダーシップの下、社会連携担当理事を本部長、事業責任者を副本部長とする「COC+事業本部」を平成28年5月10日に設置しました。本部には統括及び領域コーディネーターを配置し、月1～2回程度コーディネーターミーティングを開催しています。また、教育担当副学長や、キャリアセンター長、学部の教員が委員となるCOC+推進委員会を設置し、事業の全学的展開が可能となる体制を整備しました。

なお、具体的な事業の推進については、地域連携推進室を中心に、人文学、保健学、農学の各研究科地域連携センターや都市安全研究センター、国際教養教育院、キャリアセンターと協力しながら進めています。



4.PDCAサイクル

統括コーディネーターを中心に月に1度、取組点検のための自己評価会議を開催しています。学期末には自己評価をまとめ、事業本部長に報告しています。その他、各事業協働機関を訪問し、進捗を報告し、フィードバックを受け、事業に反映しています。

事業開始の2年目、4年目、最終年度には、外部評価委員会を設置し、事業全体の評価を受けることとしています。



教育プログラム

1.構築される教育プログラムの特徴

神戸大学では地域を志向した全学共通授業科目や専門科目が多数開講されています。これを「歴史と文化」「自然と環境」「子育て・高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の五つの領域に整序し、体系化します。さらに、全学共通授業科目として、領域横断的な「地域社会形成基礎論」「ひょうご神戸学」を新たに開講し、地域社会に対する総合的な理解の上に専門性を身につけることのできる教育プログラムを構築します。

4年	卒業研究(地域課題)/資格取得科目	
2~4年	地域専門実践科目 (アクティブ・ラーニング、インターンシップ等)	
2~3年	地域専門科目	
1~2年	地域理解基礎カリキュラム 地域社会形成基礎論 ひょうご神戸学 など	地域専門科目 (基礎)

2.養成される人材(卒業後の学生のイメージ)

本事業では、次の六つの要素を備えた人材の養成を目指します。①ふるさと意識に満ちた人材、②地域コミュニティの活性化に貢献できる人材、③次世代を担う国際感覚にあふれた科学技術人材・グローバル人材、④地域の魅力を高めイノベーションの創出に意欲的な人材、⑤防災マインドを備えた人材、⑥協調性、コミュニケーション能力、耐力を備えた人材。

また、地域に対する総合的な理解を身につけることで、どのような職に就き、どこに住んだとしても、地域住民の一員として地域課題に取り組める人材を養成します。

3.教育プログラム開発に向けた活動

■地域志向科目のためのテキスト作成

「歴史と文化」「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」「イノベーション」の各領域ごとに、地域課題や地域づくりについて学ぶための、初学者向けテキストを作成しています。地域志向科目(専門科目)での活用および、一般読者の利用も想定し、シリーズとして刊行する予定です。

今年度は、シリーズとしての本の体裁の決定や、各領域の章立て、関係機関の教職員への協力依頼などを進めました。学生や一般読者向けということで、手に取って読みやすいものを目指しています。また地域における様々な取組事例などをコラムとして掲載するほか、さらに学びたい人に向けて読書案内なども掲載する予定です。

「歴史と文化」領域のテキストは平成29年9月、「自然と環境」「子育て高齢化対策」「安心安全な地域社会」の各領域のテキストは平成30年3月、「イノベーション」領域のテキストは平成30年度中の刊行を目指して、編集作業を進めています。

内容については、各領域で、コーディネーター等が中心となって構成を検討し、執筆者会議等を行いながら内容の体系化を図っています。先行して刊行する領域については、おおむね章立てが固まり、関係機関の協力を得ながら、作成を進めています。

これらの活動を通して、各領域ごとに意見交換を行い、地域課題に取り組む教育プログラムを開発しています。



■全学共通授業科目「地域社会形成基礎論」/「ひょうご神戸学」

神戸大学では、平成29年度後期より、全学共通授業科目として「地域社会形成基礎論」と「ひょうご神戸学」の2科目を、それぞれ第3・第4クォーターで開講します。いずれも総合科目Ⅰとして、「ひょうご神戸学」は月曜日5限、「地域社会形成基礎論」は木曜日5限で開講します。

いずれも全8回のオムニバス形式の授業となりますが、開講の準備として、授業の構成を検討し、講師の選定や、COC+事業協働機関等への協力依頼などを行いました。

●地域社会形成基礎論

この授業では、現在、地域が直面している課題について多角的に理解し、地域社会形成の意義や、そのための取組についての知識を得ることを目的とし、経済・環境・福祉・歴史・法などの各分野から地域社会形成についての講義を行います。ひとくちに地域といっても、地域社会はどのように成り立っているのか、そもそも地域と何か、地域をどのような視点から見ていけばいいのかといった、地域を考えるための多様な視角を学びます。

現在予定されている授業の構成は以下のとおりです(題名は仮題、順番は入れ替わる場合があります)

- ①現代日本の地域課題
- ②地域経済の課題と地域づくり
- ③自然と共生した地域づくりにおける課題
- ④地域医療・福祉の課題
- ⑤地域歴史文化の課題
- ⑥災害と地域
- ⑦地域と法・制度
- ⑧地域づくり、地域再生の取り組みとボランティア・NPO

●ひょうご神戸学

現在、地域の危機ということが言われ、地域再生や地域づくりの取組が各地で行われていますが、この授業では、地域で活躍できる人材、地元の兵庫・神戸で地域の担い手となれる人材の育成を目的とし、兵庫・神戸地域について、経済、地理、歴史、戦災や災害、そして兵庫県や神戸市の現状や課題などの基礎的知識についての講義を行うものです。将来、どのような分野で、あるいはどのような形で地域を担っていくにしても、その地域がどんな地域なのか、地域についての基礎的な知識が必要です。これを多面的に学べるよう、各分野の専門家や、兵庫県・神戸市の職員の方に講義をしていただく予定です。また、講義の最後の回では、日頃兵庫県内を取材して、地域の現状を肌で感じておられる神戸新聞社の方にお話しいただき、質疑応答する機会を設ける予定です。

現在予定されている授業の構成は以下のとおりです(題名は仮題、順番は入れ替わる場合があります)。

- ①兵庫県・神戸市の歴史(古代・中世)
- ②兵庫県・神戸市の歴史(近世・近代)
- ③兵庫県の災害と戦災
- ④兵庫県の現在
- ⑤神戸市の現状と未来の姿
- ⑥兵庫県・神戸市の地理
- ⑦経済から見る兵庫・神戸のありみ
- ⑧兵庫県の地域課題 地元メディアの視点から

これら2科目は、来年度には試行的に実施し、平成30年度からは、本格的に実施され、それぞれ第1～第4の各クォーターでの開講を予定しています。

■地域志向科目の体系化にむけて

全学共通授業科目や専門科目のなかで、地域に関連する授業科目を、新たに5つの領域に整序し、体系化する取組を進めています。今後はさらに、内容を精査し、上記の新規開講予定の科目と合わせ、プログラムの体系化を図り、学生が将来、地域社会でどのような職に就き、あるいは地域の一員としてどのような活動を行いたいかに応じて、履修モデルを作成し、提案していく予定です。

事業全体の活動報告

1.平成27～28年度活動概況

平成27年11月に採択を受け、まず事業協働機関と円滑な連携を図るための学外体制の整備を行いました。具体的には、平成28年2月に本事業に参加する10の機関で、「ひょうご神戸『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業』」に関する協定書を発行したほか、ひょうご神戸プラットフォーム協議会を開催しました(平成27年11月12日、平成28年6月6日)。さらに、COC+代表校として、神戸大学にCOC+事業本部とCOC+推進委員会を設置するなど、学内体制の整備にも取り組みました。

本事業では、地域課題を「歴史と文化」、「自然と環境」、「子育て高齢化対策」、「安心安全な地域社会」、「イノベーション」の5領域に分け、これらの専門性を生かした教育プログラムの構築や雇用創出に取り組むため、領域毎にコーディネーターを配置しています。また、事業全体を取りまとめる統括コーディネーターを神戸大学に配置し、事業全体の調整を行っています。月1～2回開催されるコーディネーターミーティングでは、教育プログラムの検討や、プラットフォーム作りに向けた活動の報告と課題などを検討しています。

また、各領域を横断するCOC+シンポジウムやキックオフシンポジウムを開催することで、事業協働機関に留まらず、地域創生など同じ課題に取り組む大学や自治体、経済団体などと交流し、本事業の成果発信に努めました。

さらに、若者の地元定着に向けて、学生と地元企業の出会いの機会を創出するための取組として、合同企業説明会での地元企業特集や「工学フォーラム2016」、「なりわいカフェ」(ボランティア支援室)を実施したほか、自治体を中心となって行う事業にも協力しました。

2.活動詳細

1 協議会の開催

本事業に参加する10の機関で「ひょうご神戸『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業』」に関する協定書を平成28年2月24日付で取り交わしました。それに先立って、平成27年11月12日に第1回ひょうご神戸プラットフォーム協議会を開催し、事業方針や年度計画、予算に関する協議を行いました。平成28年6月6日には第2回ひょうご神戸プラットフォーム協議会を開催し、28年度の事業方針や年度計画等の検討を行いました。

2 コーディネーターミーティングの開催

事業を円滑に進めるため、コーディネーターが集まりミーティングを月1～2回程度開催しています。各領域における事業の進捗報告や教育プログラムの検討を行いました。特に、平成28年12月26日に開催したミーティングでは、「神戸学」検定テキストの教育プログラムへの活用方法について検討しました。

開催日 平成28年1月7日、1月21日、2月4日、2月18日、3月3日、3月17日、4月15日、5月20日、6月3日、7月8日(遠隔)、7月15日、8月22日、9月23日、10月24日、11月28日、12月19日(遠隔)、12月26日、平成29年1月26日、2月13日、3月10日



3 学内体制の整備

全学共通授業科目の中で地域志向科目を新たに開設することや既開講科目の地域志向科目の指定に向けて国際教養教育院と複数回にわたり検討を行いました。平成29年の第3、第4クォーターから、全学共通授業科目の中に新規2科目(地域社会形成基礎論、ひょうご神戸学)を開講します。

また、学生の地元就職支援に向けて、キャリアセンターと打ち合わせを行いました。

4 学外機関との連携

各事業協働機関を訪問し、地域課題やニーズ等について意見を交換したほか、自治体等の地域創生関連の施策で行われている事業に対する大学の参画について調整を行いました。(神戸2020ビジョンの推進に関する調査、神戸の未来をつくる学生100人ワークショップ、ひょうごの魅力再発見～神戸大学編～等)その他、地域志向科目の整備や地元就職支援に関する取組について他大学を訪問し、先行調査を行いました。

また、地方創生事業に関する大学の取組について、帯広畜産大学、仙台市宮城野区役所等と意見交換を行いました。



神戸の未来をつくる学生100人ワークショップ

5 雇用創出、地元就職支援にかかる事項

学生と地元の企業とが会う機会を創出するため、各種イベントを開催しました。

ハッカに秘められた巨大商社のDNA ～灘区・鈴木薄荷の過去と今～

神戸には、かつての財閥、三井・三菱にも匹敵するほどの巨大な商社「鈴木商店」がありました。その「鈴木商店」の薄荷事業を継ぐ鈴木薄荷株式会社をテーマに、その企業理念や業務形態を知ることで、学生に対し、企業選択の幅を広げるきっかけにすることをめざし開催しました。

開催日 平成28年10月28日 **参加企業** 鈴木薄荷株式会社 **参加人数** 70名



工学フォーラム

理工系学生の就職には研究室の動向などが影響するため、その関係づくりの第一歩として、地元企業と理工系の研究室単位での技術交流をめざす「工学フォーラム2016」が開催されました。「ものづくり」中心に展開されてきた技術交流を、COC+事業が採択された平成27年度から、「もの・こと・ひと・まち」というテーマに広げ、「もの」が「こと」によって、新しい価値を作りだし、「ひと」が社会実装を行うことで新しい「まち」をつくるという、アクティブな活動に注目しました。

開催日 平成28年11月28日 **参加企業** 地元企業を中心とした22社



『べっぴんさん』の経営学

株式会社ファミリア創業者のひとり・坂野惇子さんらを通じて、地元・神戸の企業ビジネスモデルを考え、地元企業の魅力を発信するため、企画されました。当日の講演では、加護野忠男神戸大学名誉教授より、神戸で育った企業の事例を挙げつつ、神戸型ビジネスの特徴として、新しいビジネスの仕組みを作り上げてきたことなどが挙げられると報告されました。

開催日 平成28年11月29日 **参加企業** ファミリア **参加人数** 250名



6 情報発信

事業協働地域でのプラットフォーム構築と事業の成果発信のため各種シンポジウムを開催しました。

COC+キックオフシンポジウム「つなぐ いかす 地域のか～みんなでつながる 子育て～」

本シンポジウムでは、「子育て高齢化対策」領域に関係して、大学の専門家、新聞社、地域の子育て関係者のプラットフォーム構築についてその可能性や今後の展開について地域住民の方々とともに議論を行いました。神戸大学保健学研究科高田哲教授が「子どもの発達と子育て～発達のステージに合わせたふれあい」と題した講演を行いました。

開催日 平成27年11月28日 **場所** 神戸新聞松方ホール



ひょうご神戸プラットフォーム 第1回COC+シンポジウム

COC+事業の第1回目のシンポジウムとして、大学の教職員、学生、地域の方々や全国各地の関係者など約90名の参加を得て開催しました。

本シンポジウムでは、COC+事業に参加する大学から、これまでのCOCや地域をフィールドとした教育研究の取組成果、自治体から、地域創生に関する施策の報告がありました。これにより、参加機関で課題を共有するとともに今後、事業を進めるに当たった関係者間のネットワークを構築することができました。

開催日 平成28年1月28日 **場所** 神戸大学瀧川記念学術交流会館 **参加人数** 90名



ひょうご神戸プラットフォーム 第2回COC+シンポジウム

中小企業の課題を大学のゼミの専門性を活かして課題解決を目指す「Mラボ事業」を中心に、神戸大学や兵庫県立大学、神戸新聞社から報告を得て、参加した県内の様々な機関の方々とともに、これまでの成果を共有し、さらに若者の地元定着に向けた意見交換などを行いました。第2部では地域で活動する学生団体からの発表を行い、地域創生に取り組む大学や自治体、地域関係の方々など約70名の参加を得て、「地域創生」を育む環境づくりについて、議論を深めることができました。

開催日 平成29年1月27日 **場所** 神戸大学瀧川記念学術交流会館 **参加人数** 70名



歴史と文化領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成、雇用創出

本領域では、歴史と文化の側面から、地域の歴史性や文化の多様性に関する知識を持ち、地域に貢献できる人材を育成するための教育プログラムや、その実施のためのプラットフォームの整備を進めています。こうした知識を持った人材が、地域自治体の社会教育部門(学芸員・司書・公民館職員を含む)へ就職・配属されることが当面期待されます。また地域づくりを担うNPOなどの諸団体職員やコンサルタント会社へ就職する道も開けると考えています。

2. 平成27～28年度活動概況

本領域におけるこれまでの活動は、人文学研究科地域連携センターの諸活動と密接にリンクする形で、展開してきました。なかでもCOC+事業と密接に関わった事業は次のものが挙げられます。(1)「歴史と文化」領域テキストの作成に向けての活動、(2)文学部・大学院人文学研究科における学生向け・市民向け地域志向教育プログラム(地域歴史遺産保全活用基礎論A・B、地域歴史遺産活用演習、まちづくり地域歴史遺産活用講座、まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラム古文書解読初級講座)の開講、(3)地域歴史文化大学フォーラムの開催、(4)歴史文化をめぐる地域連携協議会の開催、および(5)コーディネーターによる調査・研究からなっています。

3. 活動詳細

1 「歴史と文化」領域の地域志向科目教材作成についての打ち合わせ・協議

27年度から「歴史と文化」領域では他の領域に先駆けて、地域志向科目で用いる教材(テキスト)の作成について、打ち合わせと協議を継続的におこなってきました。平成28年2月15日(月)には、具体的なテキストの概要と、作業進行のスケジュールなどについて打ち合わせを行いました。これを受けて、同年2月22日(月)には、「歴史と文化」領域のテキストの内容の方向性、全体の体系性を念頭に置いた新たに全学共通授業科目で使用するテキストとの関係性について協議し、3月には関係者の協力依頼を行いました。4月1日(金)、同月12日(火)の関係者打合せを経て、関係機関への協力依頼を行いました。平成28年12月19日(月)には、執筆者を一堂に会した会議を文学部学生ホールで行い、執筆要領や締切などの確認を行いました。なお、平成29年1月12日(木)には、執筆者の一部が集まって、補足的な打合せを行いました。

2 地域志向教育プログラムおよび市民向け講座

文学部・大学院人文学研究科では、地域歴史遺産保全活用基礎論A、Bを開講しています。これは地域歴史遺産の保全・活用のための基礎的講義をリレー形式で行うもので、今年度よりクォーター制に移行したことを受けて、基礎論Aを第1Q・第2Q(月曜1限)、基礎論Bを第3Q・第4Q(金曜1限)にそれぞれ開講しました。

また、地域歴史遺産活用演習として、9月(篠山市)と2月(三木市)に行いました。これは市民とともに地域文献史料の活用を図る専門的知識を得るための実践的演習を合宿形式で行うものです。また、平成28年10月15日(土)・16日(日)には、一般市民向けに「まちづくり地域歴史遺産活用講座」を開催しました。本講座は、年に2回、大学と地域とで開催するもので、地域開催としては、平成28年3月には姫路市香寺町で開催しました。来年度も平成29年4月ないし5月に朝来市において開催する予定です。さらに平成28年度まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラムとして、古文書解読初級講座を開催しました(平成28年11月8日、15日、22日、29日、於:文学部学生ホール、講師:河島裕子氏)。



大学COC+シンポジウム 地域歴史遺産としての怪異伝承～『尼崎百物語を起点に』～

本領域の事業の一環として、園田学園女子大学の主催で、平成28年7月16日(土)に標記シンポジウムを開催しました。当日は74名の方に参加いただき、ディスカッションでは、怪異伝承の地域的特性や、継承が危機にさらされている地域の伝承の記録と活用などについて議論を行いました。



3 地域歴史文化大学フォーラムの開催

開催日 平成28年11月12日(土) 場所 神戸大学 文学部 参加人数 48名(21機関)

プログラム

- 報告① 奥村弘(神戸大学地域連携推進室長)
「地域歴史文化拠点としての大学の役割神戸大学人文学研究科地域連携センターの活動から考える」
- 報告② 佐藤大介(東北大学災害科学国際研究所准教授)
「宮城での歴史資料保全活動、「その先」へ向けて」
- 報告③ 伊藤昭弘(佐賀大学地域学歴史文化研究センター准教授)
「地域の研究拠点として一佐賀大学地域学歴史文化研究センターの10年一」
- 報告④ 寺内浩(愛媛大学法文学部教授)
「愛媛大学と地域歴史資料の保存・活用」
- 緊急報告 三角菜緒(九州国立博物館アソシエイトフェロー)
「熊本の被災文化財とレスキューの現況」

討論

前半の4氏の報告では、歴史文化を含めた知の拠点として国立(地方)大学の意義があらためて確認される一方、地域の中の大学として社会との関わりが重要となってきたこと、人材としての学生数や大学経費の減少など大学・研究機関の課題が多く、そのことが地域歴史遺産の保全へも影響しつつある現状などが報告されました。その後の緊急報告では、平成28年4月の熊本地震の復興が進まず、被災資料への対応(救出)も非常に遅れている現状が報告されました。討論では、フォーラムにご参加いただいた方々より各地域・各大学の現状などについて発言があり、報告者を交えて活発な議論が行われました。

今回のフォーラムを通して、大学の持つ専門知と社会が広範に持つ社会知を循環させ集約してゆく必要性や、文化財保全への寄与など地域歴史文化を継承していく拠点として、地域に所在する大学や研究機関の存在とそのネットワークの重要性などが確認されました。論点が極めて多岐にわたった意義深いフォーラムとなりました。

4 歴史文化をめぐる地域連携協議会の開催

開催日 平成29年1月29日(日) 場所 神戸大学 瀧川記念学術交流会館 参加人数 99名

プログラム

第1部 活動報告

- ・伊藤導三(氷上古文書同好会代表世話人)
「氷上古文書同好会の活動の経緯—結成から区有文書目録の完成まで—」
- ・中島雄二(朝来市役所生野支所地域振興課参事・生野書院副館長)
「歴史遺産を活かしたまちづくり—生野公民館の事業から—」

第2部 協議会

- ・石野律子(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員・地域史料保全有志の会副代表)
「村が経糸、会が緯糸となって織り成す栄村歴史文化館」
- ・進藤輝司(三木古文書研究会会員)
「襖下張り文書の解読と市史編さんボランティア」
- ・川内淳史(神戸大学大学院人文学研究科特命講師)
「自治体史編さんという〈場〉—三木市における地域活動と歴史文化—」
- ・井上舞(神戸大学大学院人文学研究科研究員)
「生野書院という〈場〉での古文書整理」
- ・大津留厚(神戸大学大学院人文学研究科教授)
「青野原俘虜収容所研究と地域社会—15年目の総括—」

第3部 全体討論

全体討論では、地域歴史をめぐる文化活動が社会教育施設など空間としての〈場〉で、地域活動を担う人々の集まりによって展開している状況が確認される一方、古文書整理や解読などの作業に地域住民が携わることに對して無報酬のボランティアか報酬の支払いを伴うべきかなど問題などが提起され、議論が交わされました。また休憩時間には交流会として各団体の活動や刊行物の紹介なども実施され、関係者間の相互交流が図られました。

5 調査

他大学のCOC/COC+関連、また大学の地域連携関連の下記の企画に出席し、取組事例の調査を行いました。

東北学院大学創立130周年記念事業・COC+「地域コーディネーター見本市 地域コーディネーターが走る! 一宮城県内先進事例に学ぶ地域力の魅力と可能性—」 開催日 平成29年1月13日(金) 場所 東北学院大学



自然と環境領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成、雇用創出

本事業では、兵庫県下の多様な地域社会が抱える課題を理解し、それに対応できる人材を育成することを目的として、体系的なカリキュラムと多様なインターンシップを結合した人材育成プログラムの開発を実施しています。

本領域では、食農コープ教育プログラムを通じて、中山間地域で自然環境利用による地域の活性化支援を行うことが出来る自然環境や農業についての専門知識を持ち、都市と農村を結ぶ地域交流活動等によって、住民・行政・NPO等と大学をつなぐ活動をサポートしうる人材育成に取り組んでいます。

また、6次産業化に関する取組や、病害対抗性品種や病害診断法などの技術開発を進めることで、農業協同組合、農家・農業法人やアグリビジネス関連の企業について新たな雇用創出を目指しています。

2. 平成27～28年度活動概況

本領域では、農学部専門教育(理論)と、食と農の現場での実践とを統合し、理論と実践の反復により、教育の質を高めることを目指す、食農コープ教育プログラムを展開しています。この教育プログラムは、実践農学入門、実践農学、兵庫県農業環境論の3つの専門科目で構成されています。そのなかの実践農学は、実践農学入門で学習した内容を発展させた科目ですが、実践農学入門からのつながりをスムーズにし、地域社会の多様な課題を理解することを目指して、平成28年度より、開講年次を3年次から2年次に移行させ、インターンシップ型プロジェクトを加えることとなりました。

また、地域の創造的発展に繋がる研究と人材育成を行う拠点として、平成28年10月、篠山市とともに、神戸大学・篠山市農村イノベーションラボをJR篠山駅構内に開設しました。現在、この拠点では、篠山市主催で、農村地域で企業・継業を目指す人のためのビジネススクールが開講しています。

上記が、平成27年度から平成28年度にかけての、本領域の代表的な取り組みですが、そのほかフォーラムの開催やテキスト作成に向けた準備なども行いました。

3. 活動詳細

1 食農コープ教育プログラムの運営

食農コープ教育プログラムに位置づけられている科目を円滑に運営していくため、担当教職員と、定期的にミーティングを行いました。実践農学入門と実践農学の学生の受入先の方々に対しては、説明会や打ち合わせを、必要に応じて実施しました。そのほか、ホームページを立ち上げ、食農コープ教育プログラムのニュースや実習レポートなどを幅広く紹介しています。

実践農学入門

説明会: 4/8

ガイダンス: 4/22

実習: 5/21, 6/18, 7/9, 10/8, 12/3, 1/21

校内学習: 7/22, 12/16

2017説明会(篠山市西紀中地区): 1/9



実践農学

説明会: 4/8

ガイダンス: 4/27

演習: (森づくり) 5/28, 6/5, 10/29-30, 1/8-9

(日置地区) 6/18-19, 7/23-24, 10/15-16, 12/18-19

(岡野地区) 6/26, 7/31, 9/18, 11/3, 11/20

(篠山市役所) 6/12, 7/8, 9/5-9/9, 10/11

(地域おこし協力隊) 6/25-26, 9/21, 9/27-28, 10/27, 11/10-11, 12/18

(グリーンファームささやま) 8/9, 8/17, 9/8-9/9, 9/15-9/16

(味土里館) 8/20, 9/3, 9/8-9, 9/15-16, 27

リフレクション: 1/21



兵庫県農業環境論

講義: 後期毎週金曜



2 実践農学・インターンシップ型演習の立ち上げ

平成28年度より、実践農学へ、インターンシップ型プロジェクトを加えることとなったため、学生の受入先となる方々と授業内容に関する打ち合わせを行うとともに、担当教員や現地コーディネーターと運営方法や評価方法など授業の枠組みについて定期的に協議しました。

調査プロジェクト(森づくり班)は、神戸市北区と兵庫県篠山市をフィールドとし、インターンシップ型プロジェクトは、篠山市日置地区、篠山市岡野地区、篠山市役所、篠山市地域おこし協力隊、グリーンファームささやま、JA丹波ささやま直売所を受入先とし、演習を実施しました。計37名が履修しました(森づくり: 15名、日置地区: 8名、岡野地区: 3名、篠山市役所: 4名、篠山市地域おこし協力隊: 3名、グリーンファームささやま: 1名、JA丹波 ささやま直売所: 3名)。



3 神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ開設準備

平成28年10月の農村イノベーションラボの開設に向け、運営方法などに関する打ち合わせ(週1回)やスタッフ研修会を実施しました。農村イノベーションラボでは、農村地域での起業・継業を目指す人のための、篠山イノベーターズスクールが開講することになっており、その開講に向けた説明会のサポートを行いました。そのほか、ホームページを立ち上げ、神戸大学・篠山市農村イノベーションラボのニュースやイベントレポート等を紹介しています。



4 テキスト作成に向けた準備

自然と環境領域で作成するテキストの打ち合わせを行い、執筆者に依頼文書を送付する等、テキスト作成に向けた準備を進めています。

5 地域連携フォーラムの開催

本フォーラムでは、篠山市で実施している、連携事業の報告、共同研究や農業農村実習および学生団体活動などのポスター発表を行いました。篠山市をフィールドとして、農業農村体験で得られた成果を、受入れていただいた地域の方々をはじめ、学生や教職員および篠山市民の前で報告することで、自分たちの活動を多角的に振り返る機会となりました。



第10回 篠山市・神戸大学地域連携フォーラム

開催日: 平成28年1月23日 参加人数: 127名

第11回 篠山市・神戸大学地域連携フォーラム

開催日: 平成28年1月21日 参加人数: 153名



6 地域連携事業に関する情報収集および意見交換

シンポジウムへの参加や視察の実施等を通じて、人材育成および雇用創出に関する情報収集および意見交換を行いました。

第3回 吉備国際大学 地(知)の拠点シンポジウムへ参加

開催日: 平成28年2月19日 場所: 吉備国際大学

四国(「土佐山アカデミー」ほか)視察

開催日: 平成28年3月17日・18日

COCフォーラム コミュニティ再生(CR)副専攻成果報告会へ参加

開催日: 平成28年2月16日 場所: 大阪市立大学

帯広畜産大学の来校

開催日: 平成28年10月27日 場所: 神戸大学

子育て高齢化対策領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成、雇用創出

兵庫県は今後、人口減少・高齢化の加速が一層深刻となることが予測されており、子育て高齢化問題への対策は急務です。出産・子育て支援を充実させ、地域の若返りを図るとともに健康寿命の延伸を図り高齢者の社会参画を促す必要があります。本領域では、看護師および理学療法士・作業療法士の医療専門職養成課程をもつ3大学(神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学)が連携し、地域課題を解決できる医療専門職者の育成および人材の地元定着に取り組みます。

2. 平成27～28年度活動概況

平成27年度は2月に子育て高齢化対策領域のコーディネーターが着任し、各領域での方向性の統一するためコーディネーターミーティングに出席したほか、他大学で開催されたCOCおよびCOC+関連のシンポジウムに出席し情報収集を行いました。平成28年度には本領域での神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター・神戸市看護大学・園田学園女子大学の3大学での活動が本格化しました。3大学合同での会議を定期的に開催し、各大学の代表教員が意見交換しながらCOC+事業の展開の仕方について検討しました。平成28年10月15日には領域での第1回目の合同報告会を開催し、各大学で取り組んでいる地域活動で得た知見や課題の共有を図りました。

3. 活動詳細

1 会議の開催

神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター内および神戸市看護大学、園田学園女子大学の3大学で、COC+事業を円滑に進めるため、定期的な打ち合わせの場を設けました。

① 神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学3大学間会議

開催日 平成28年4月27日、7月29日、10月15日、平成29年2月1日

② 神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター運営委員

開催日 平成28年3月23日、5月18日、7月27日、9月28日、11月16日、平成29年1月18日



大学間会議の様子

2 情報発信

COC+子育て高齢化対策領域の活動を学内外へ広めるため、報告会やシンポジウムを開催しました。

① 3大学合同報告会“プラットフォーム”

神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学の3大学が主催となって、COC+事業の子育て高齢化対策の第一回目の報告会を開催しました。第一部では、「みんなで考える少子高齢化社会」をテーマにシンポジウムを行いました。本学高田教授より「少子化と子育て支援」について、神戸市看護大学の相原准教授より「高齢化と地域コミュニティ」について、園田学園女子大学の大江教授より「地域資源のひと・もの・こと・記憶とまちづくり」について、各大学の活動を踏まえながら参加者へ向けて解説がなされました。第二部では、各大学の取り組みに関するポスターの掲示と、参加者による情報交換会を行いました。各大学の学生や教員が互いに顔を合わせ、活動や学生生活について話し合う機会となりました。第三部では、学生の部として各大学の代表学生より、地域での取り組みと成果報告がなされ、学生同士の質疑応答も積極的に行われました。

開催日 平成28年10月15日(土) 場所 園田学園女子大学 参加人数 100名



第一部:シンポジウム 総合討論の様子



第二部:ポスター掲示・情報交換会の様子



第三部:学生の部 質疑応答の様子



第三部:学生の部 質疑応答の様子

② 神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター報告会

地域連携事業の取り組みを学内外に広く知っていただくため、本報告会を開催しました。本学大学院保健学研究科に所属する教員および大学院生が、それぞれ「子育て支援」「高齢化対策」に関しての活動を報告し、広い視点での意見交換が行われました。

開催日 平成27年度:平成28年2月6日 場所 ラッセホール 参加人数 45名
開催日 平成28年度:平成29年1月28日 場所 神戸市教育会館 参加人数 40名



地域連携センター報告会

③ 災害時の要援護者に対する支援セミナー～東北から神戸に～

神戸大学大学院保健学研究科地域連携センターが東北大学・宮城教育大学や自治体・NPOと協力して、被災の経験に基づき専門領域を超えて現実に即した要援護者への支援法を考えるセミナーを開催しています。阪神淡路大震災を経験した神戸と、東日本大震災を経験した東北から講師が登場し、被災地の状況や被災経験から得られたこと、今後の課題について議論が展開されました。

開催日 平成27年度:平成28年2月14日 場所 ラッセホール 参加人数 80名
開催日 平成28年度:平成29年2月12日 場所 ラッセホール 参加人数 60名



災害時の要援護者に対するセミナー

④ 神戸大学大学院保健学研究科地域連携センターホームページ・リーフレットによる情報発信

平成28年度は、神戸大学大学院保健学研究科地域連携センターのホームページとリーフレットの内容をリニューアルし、COC+事業子育て高齢化対策領域や神戸大学大学院保健学研究科地域連携センターで行われている地域活動の情報発信に努めました。

3 神戸大学・神戸市看護大学 実習連携の調整

神戸大学大学院保健学研究科では大学院生が中心となって、地域在住高齢者の健康意識を高めるための健康測定会を実施しています。また、神戸市看護大学も近隣住民の健康チェックや地域理解を深めるための実習を実施しています。COC+事業では、神戸大学と神戸市看護大学が地域での活動で得た知見の共有を図り、学生が多職種連携の意識をもって実習に取り組めるプログラムを取り入れる予定です。平成27年度～28年度は情報収集のため神戸市看護大学での報告会等に領域コーディネーターが出席しました。また、平成28年度は「健康生活支援学実習」発表会にて神戸大学の大学院生が地域での健康測定会について報告したほか、教育ボランティア交流会にて領域コーディネーターよりCOC+事業の紹介を行いました。

① 神戸市看護大学「健康生活支援学実習」発表会

開催日 平成28年2月25日 場所 竜が台地域福祉センター
開催日 平成29年2月22日 場所 竜が台地域福祉センター



健康生活支援実習

② 神戸市看護大学「まちの保健室」出前講座

開催日 平成28年9月8日 場所 竜が台地域福祉センター
開催日 平成28年9月23日 場所 菅の台地域福祉センター

③ 神戸市看護大学教育ボランティア交流会

開催日 平成29年2月8日 場所 菅の台地域福祉センター



教育ボランティア交流会

4 COC+子育て高齢化対策領域テキスト作成

COC+事業では、各領域で地域理解を助けるためのテキストを作成します。子育て高齢化対策領域では、平成28年4月より領域テキストの企画案を作成し、9月より執筆者の方へ事業説明と依頼を行いました。

打合せ日 平成28年9月9日、9月13日、9月31日、10月31日、11月1日、11月18日、12月9日、12月15日、平成29年1月31日

5 情報収集

領域コーディネーターが神戸市看護大学・園田学園女子大学およびその他の大学で行われたCOC/COC+シンポジウムに出席し、情報収集を行いました。

開催日 平成28年2月11日 場所 園田学園女子大学 平成27年度地域志向教育研究報告会
開催日 平成28年2月27・28日 場所 高知大学 平成27年度COC/COC+全国シンポジウム 大学改変と機能分化
開催日 平成28年12月3日 場所 神戸市看護大学 COC事業シンポジウム2016 在宅医療を進めるための多職種連携「在宅ケアのつながる力を育む」

安心安全な地域社会領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成

阪神・淡路大震災から20年以上が経過し、断層を考慮したまちづくりが各地で行われつつあります。多くの死傷者、行方不明者を出した東日本大震災では、現在でも仮設住宅での生活を続けている方々が多くおられます。南海トラフ巨大地震の可能性が懸念され、地球温暖化により台風や豪雨も多発している昨今、われわれは多方面から、社会全体で災害への対応力を身につけ、より良い復興のあり方を探る必要があります。安心安全な社会構築のため、市民が各分野の専門家や現地支援者から災害の性質を学び、ボランティアやまちづくりの実践的手法を身につけて、防災意識を地域で啓発できる人材を育成します。

2. 平成27～28年度活動概況

市民や学生の防災・減災の意識の向上、専門知識の習得を図る機会を創出するため、都市安全研究センターと共催となって月1回の一般向け講演会や学生向けの災害の授業の参加・運営を行いました。そこでは、専門家や現地支援者の取組内容と今後の課題を共有しました。また、神戸での震災経験を被災地や災害を体験していない方にも教訓を伝えていくため、神戸と熊本、神戸と東北地方を対象にしたシンポジウムやまち歩き等のイベントを開催しました。さらに、より多くの市民の防災意識の向上を目指すため、以上の活動を基本単位としてテキスト作成に取り組みました。

3. 活動詳細

1 テキスト作成打ち合わせ

都市安全研究センターの教員とともにテキスト作成の打ち合わせと報告を行いました。本事業で運営するイベントや講義等を参考としてテキストの構成について打ち合わせを行いました。

開催日 平成28年6月23日、7月28日、11月27日、平成29年1月20日、3月1日

2 学生や市民、支援者の防災・減災の意識を高めるための機会創出にかかる支援

本事業を推進するための各種イベントや講義の参加・運営を行いました。

1 オープンゼミナールの参加・運営

市民の防災・減災に関する専門知識の習得や現地支援活動の内容を共有する機会を創出するため、一般向けの講演会「オープンゼミナール」を都市安全研究センターと共催で月1回開催しました。主に災害研究や調査・支援の報告を行いました。講演テーマは自然現象そのものから災害と社会問題の関係性まで多岐にわたりました。また、質疑応答では、以前の講演を踏まえて新たな視点で討論が発展することもあり、継続した学習の重要性を認識しました。



オープンゼミナール

講演テーマ 住宅復興、避難経路、地盤、活断層、津波、アスベスト、福島原発、洪水、ジェンダー

開催日 平成28年4月16日、5月14日、6月18日、7月16日、8月20日、9月17日、10月15日、11月19日、12月17日、平成29年1月21日、2月4日、3月18日

2 学生向けの授業(阪神・淡路大震災)の参加・運営

学生の防災・減災に関する専門知識の習得や現地支援活動の内容を学ぶ機会を創出するため、学生向けの授業「阪神・淡路大震災」の運営を平成28年4月～8月において週1回程度行いました。本科目は阪神・淡路大震災を経験した兵庫県の記憶を継承し、防災マインドを備えた人材を育成するために必要な地域志向科目の一つです。

開催日 平成28年4月12日、4月19日、4月26日、5月10日、5月17日、5月24日、5月31日、6月7日、6月14日、6月21日、6月28日、7月5日、7月12日、7月19日、7月26日、8月2日

3 震災復興支援プラットフォームのワークショップの参加・運営

復興支援に関する情報交換の場を創出するため、学内の専門家や現地支援者が有志でメンバーとなり、ワークショップを行いました。平成28年4月に発生した熊本地震の調査報告や情報交換を行いました。

開催日 平成28年4月20日、7月7日、平成29年2月1日

3 震災経験継承に関する取組

市民の防災・減災に関する専門知識の習得や現地支援活動内容の共有に加え、被災地域や被災を経験していない方との交流・意見交換を通じて、より良い復興、地域のさらなる防災力の強化に繋げていくための各種シンポジウムの開催または参加・運営を行いました。

1 震災復興学シンポジウム「災害対応力を備えた社会のあり方検証」の開催

開催日 平成28年3月8日 場所 神戸市勤労会館

大学と報道機関が連携して、研究者の知見を分かりやすい言葉で伝えることで、防災力を強めていきたいということを再認識しました。



2 COC+熊本地震復興支援まちづくりシンポジウム「地域社会の復興に向けて」の開催

開催日 平成28年12月10日 場所 神戸市役所4号館 危機管理センター

神戸市真野地区の住民との対話を通じて、住民を主体としたハードなまちづくりに対応していくことの必要性、自然や歴史の観点からもまちの良さを大事にしながら、まちづくりを進めて行くことを確認しました。

* 真野地区と鷹取駅を巡るまち歩き会

開催日 平成28年12月11日 場所 真野地区及びJR鷹取駅周辺

午前中には標記まち歩き会を開催し、午後には熊本県益城町の支援に関わっている専門家及び住民代表とともに復興視察を開催しました。



熊本地震復興支援まちづくりシンポジウム「地域社会の復興に向けて」



真野地区と鷹取駅を巡るまち歩き

3 兵庫県の被災地から東日本大震災の被災地への取組

阪神・淡路大震災を経験した兵庫県の先進的な取組を東日本大震災の被災地に伝えました。

* 記憶の街ワークショップin鶴住居の参加・運営

開催日 平成28年9月22日～28日 場所 旧南三陸国道事務所大ホール

* 鶴住居川流域地域の住民と水災害に関する意見交換会と現地調査

開催日 平成28年11月30日～31日 場所 鶴住居地区、鶴住居川流域周辺地区



記憶の街ワークショップin鶴住居

4 情報発信

広く本事業の情報発信を行うため、各種イベントの案内・報告を関係部署のホームページや学外機関の広報誌等に掲載しました。



学生ボランティア「konti」による熊本派遣報告会

5 関係部署、学外機関との調整、調査

本事業推進に向けたイベントの準備や被災地状況の把握の為、各種調整及び調査を行いました。

- 平成28年5～11月：まちづくりシンポジウムの開催や運営にかかる調整(真野地区周辺の住民の方、人と防災未来センターの研究員、熊本大学、益城町の住民組織代表、学生ボランティア「学生震災救援隊」)
- 平成28年6月4日～5日：都市安全研究センターの教員と研究室の学生とともに益城町周辺の地盤調査
- 平成28年7月28日：学生ボランティア「konti」による熊本派遣報告会での意見交換
- 平成29年1月12日：避難所及びボランティアの支援活動を行う熊本大学COCの職員との意見交換

イノベーション領域

1. 領域が目指す教育プログラム、人材育成、雇用創出

人口減少社会の到来、超高齢化という課題の中で、地域が活力を取り戻すためには、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することが求められます。価値観が多様化し、地域課題が複雑化する中で、新たな解決策やその手法を生み出すために、従来の枠組みを超えた、産学公連携の推進によってイノベーションを創出する場作りを行います。同時に、地域における市場開拓等の事業化プロセスをデザインできるアントレプレナーシップを兼ね備えた人材の育成を進め、新たな雇用を創出します。

2. 平成27～28年度活動概況

平成27～28年度は、活動開始時期の年度として、今後本格実施に向けて骨格となりえるモデル事業の立ち上げに注力しました。事業推進に当たっては、①教育カリキュラム開発事業、②キャリア教育事業、③インターンシップ事業、④人材マッチング事業、⑤情報交流・人材交流事業の5分野にわたり推進しました。

地域に貢献できる人材育成と若者の地元定着に資する、教育プログラムの整備・開発と地元就職支援・雇用創出につながる事業を検討・試行し、様々な活動主体が相互作用・相互補完によってイノベーションを創出する仕組みづくりに取り組みました。

3. 活動詳細(兵庫県立大学)

1 教育カリキュラム開発事業

兵庫県が多様な地域課題に応え、領域ごとの実践力を養うために、「イノベーション」領域のテキスト作成に着手しました。大学1年時の共通科目や専門科目の初年次教育、および一般市民を対象にして作成します。これまで企業戦略論として語られることが多かったイノベーションを、本テキストでは地域づくり、まちづくり、社会づくりという視点からとらえなおして論じていきます。

2 キャリア教育事業

兵庫県内で事業活動を営む地方公共団体や企業などから経営者・事業責任者・若手社員などを招き、その方々から直接企業の状況を聞き、その企業の活動を知るとともに、学生が地域でのキャリア形成がどのようなものかを考え、地元でキャリアを形成する意味と魅力について理解を深めてもらう教育プログラムを立ち上げました。

事業展開においては、学部1年生／学部2～4年生／大学院生の3つの段階別に、キャリアデザイン形成を支援する授業を実施しました。

① 学部1年生を対象「基礎ゼミナール」(キャリア教育の導入を図る)

学生が、地元食品会社の商品のパッケージ・デザインや販売方法を提案することを通じて、兵庫県内の中小企業の実態の理解を深め、地元企業に対する就業意識と実務能力(市場調査・プレゼンテーション・レポート作成など)の向上を目指す授業を開講しました。



② 学部2～4年生を対象「地域キャリア論」(地域でのキャリアを考える)

「地域キャリア論」では、地域の有力企業を中心とした地域でのキャリア形成について学生に考える機会を提供するとともに、それらの企業の業務内容や魅力について紹介しました。金融機関、商社、メーカーなど様々な業界で活躍している人たちのキャリア形成について学ぶことにより、学生が幅広い視野を持つことを目指しました。



③ 大学院生を対象「実践リーダーシップ」(地域の経営者のキャリアを考える)

8人の地元製造業の大手企業や中小企業の経営者に登壇してもらうオムニバス形式の授業を開講しました。地元企業の経営者による講義や演習を通じて、企業経営の実態を把握するとともに、地域で経営者がキャリアを形成する意味と魅力について、学生が理解を深めることに取り組みました。



3 インターンシップ事業

兵庫県内には業界を牽引する優良な中小企業が多数あり、学生がインターンシップを通じて、企業の沿革・経営理念・経営方針・経営者の志を知ること、県内の中小企業に対する就業意識のイノベーションを創発することを目指します。

① 学生のニーズ調査の実施

平成28年度は、学生のインターンシップ活動に対してどのようなサポートが必要か、学生のニーズを把握するために、学部3年生を対象にして現状把握のためのアンケート調査とインタビュー調査を平成29年1月に実施しました。その調査結果を、今後のインターンシップ事業に活かしてまいります。



② 県内中小企業の動画データベースづくりへの取組

学生が地元の中小企業を知る機会を作っていくためには、中小企業を紹介するためのデータベースが必要です。若者と県内中小企業とのネットワークを構築すること、中小企業における若年者雇用創出を実現するために、学生が実際にインターンシップに参加してみたいと思えるような県内企業10社の社長と社業を紹介する動画を平成29年2月に作成しました。



4 人材マッチング事業

理系の学生を対象に兵庫県内のもづくり企業10社の工場見学を、平成28年12月と平成29年2月に実施し、産学公連携の組織・団体や関連企業との人材マッチングの事業を展開しました。学生に県内ものづくり企業の技術革新によるイノベーションを体感してもらい、自己の研究意識と県内企業に対する就業意識の変革につながることを目指しました。



5 情報交流・人材交流事業

平成28年1月30日に、産学公連携組織である地域経済団体とその会員企業の協力を得て、地域に求められるイノベーション人材の育成等を検討するイノベーション推進協議会を開催しました。また同日、「イノベーション」領域での先進的な研究等の発表を行うことで県内企業等と先導的な成果の共有を図ること、実社会での即戦力となり地域社会に求められる人材を育成するための学びの場や人材・情報交流の場を提供するために、産学公人材イノベーション関連シンポジウム「企業の社会貢献と地域経済の持続的発展—環境・社会貢献・ガバナンスのイノベーションによるサステナビリティの視点」を、平成28年3月26日と12月10日に医療・介護イノベーションセミナーを開催しました。

その他、COC+の全体事業として開催された下記シンポジウムにおいて兵庫県立大学のこれまでの取組等を報告しました。

ひょうご神戸プラットフォーム 第1回COC+シンポジウム

開催日 平成28年1月28日

ひょうご神戸プラットフォーム 第2回COC+シンポジウム

開催日 平成29年1月27日



地元定着に向けた活動

地元企業特集

1.活動の目的、活動概況

若者の地元定着の推進に寄与することを目的として、学生が将来の職業を選択するにあたり、企業の規模にとらわれず幅広い選択肢があることを認識させるとともに、兵庫県内の優良企業を学生に紹介するため、神戸大学主催の学内合同企業説明会の併設企画として「地元企業特集」を実施した。

2.活動詳細

現在の就職活動は、解禁から選考開始までわずか3ヶ月足らずという短期決戦の傾向が強まっているため、学生は「短時間」で「できるだけ多くの」企業の情報を集めようとする。その結果、「就活サイト」「合同企業説明会」という2つのツールへの傾倒がより強まっている。これらのツールを使うと、宣伝にたくさんお金をかけられる企業や、多くの学生が集まる有名企業だけに関心が向きかねない。このため、就活生からすれば「名前を知らないので検索しようがない」、「触れる機会を得にくい」など「就活サイトや合同企業説明会では情報を掴みにくい」企業、とりわけ中堅・中小企業は、就活の対象から外れてしまいがちになる。

そこで、いわゆる就活解禁後に、学内で開催する合同企業説明会に併設して、参加いただく兵庫県内の中堅企業の協力を得て「地元企業特集」を企画した。

この地元企業特集には、特に神大生採用に積極的な中堅・優良企業を選び、全国の就活生を対象とした就活サイトや合同企業説明会にはない情報、異なる視点・性質を持った、学生に有利な就活ツールを冊子体にまとめて提供するとともに、3日間で延べ3,000人超の学生が参加する合同企業説明会を、マッチングの場として提供することによって、地元企業への就職に寄与するものである。



地元企業特集の内容

学生に地元企業の強みや魅力を伝えるにあたって、「企業」「人」という2つの枠組みで、それぞれアピールポイントを設定した。学生の興味を惹きやすく、他の会社と比較しやすい言葉とした。取材先には事前にアンケートを行い、この中からひとつずつ選んでもらう。取材・原稿作成するときはそれらを中心に話を聞いた。

「企業」に関しては、以下の3項目

- 「技術力」…開発力、技術に関する考え方、自社の技術のすごさ。
- 「成長性」…過去～現在の事業展開・今後の展望、社員育成など広い意味での成長。
- 「理念・ビジョン」…それを掲げる理由・背景、事業でどう実現するか。

「人」に関しては、以下の2項目

- 「入社前後の“地元企業”イメージ」…ワークスタイル、雰囲気、地元就職の魅力。
- 「印象に残った仕事」…大企業に負けない大きな仕事・やりがいのある仕事の経験。学生が取材・原稿作成をする意義

[活動スケジュール]

11月 「地元企業特集」参加企業14社の決定

12月～1月 神戸大学の学生1名と、キャリアアドバイザーがチームを組み、各企業を訪問取材し、原稿を仕上げた。

2月下旬 印刷物完成

3月上旬 神戸大学就活生全員の自宅に事前郵送

3月5～7日 学内合同企業説明会・地元企業特集
(当日持参しなかった学生に再配付)

3月中～下旬 各学部等を通じて就活前の下級生に配付
COC+事業参加校・機関にも配付予定



なりわいカフェ

1.活動の目的、活動概況

学生ボランティア支援室は、課外活動、すなわちボランティア、社会貢献活動への参加を通じて、地域課題の問題解決能力と実践力を有する人材の育成を、本学において担ってきました。「はたらくことは、生きること」をコンセプトに、単にどこに就職するかではなく、そもそも「はたらくとはどういうことか」について、ソーシャルビジネスやNPOなどに関心のあるようなゲストも含め、本音を議論するなりわいカフェを開催しました。

また、地域アドボカシーセミナーは、学生のボランティアと社会貢献活動を質的に高度化するとともに、学生の学びを深めることを通じて、地域のニーズにより適合した課題解決へと結びつけることを目的としています。

2.活動詳細

1 なりわいカフェ

27年度は「ボーダレスなジモトをイキル」と題して、地域課題を新たな切り口で「なりわい」化してきた実践者3名に、スモールビジネスの多重化、ローカルジャーナルといった切り口から実践報告してもらいました。28年度は、「暮らしとつながる働き方」と題して、パーマカルチャー、古代茶づくりの実践家2名をお招きし、地域課題の解決方法の規模・手法の多様性を対照的な事例をコントラスト鮮やかに語り合ってもらうことで、学生の先入観を掘り崩し、柔軟な発想力を誘いました。



平成27年「ボーダレスなジモトをイキル」

ボーダレスなジモトを生きる

開催日 平成28年2月10日

場 所 神戸大学山口誓子記念館 参加者 20名

暮らしとつながる働き方

開催日 平成28年11月1日

場 所 神戸大学ラーニングコモンズ 参加者 20名



平成28年「暮らしとつながる働き方」

2 地域アドボカシーセミナー

地域課題を発信する斬新な手法の実践者を2回(福島県2名)、災害復興現場の地域課題を学生を交えて解決する実践者(熊本県1名)、地域に根ざして障害の問題にアプローチする実践者(発達障害、聴覚障害、視覚障害などの当事者12名)を招き、平成28年に合計6回開催しました。

それぞれの学びにおいて、実践者の地域課題にかける熱意と一途さに、「現場力」とでも表現しうる共通性を感じ取ることのできるセミナーとなっています。



Mラボ事業

現在、学生は東京の大企業への就職を志向する傾向にあり、地元企業は優秀な人材を求めています。それらの課題をMラボ(マッチングラボ)は、「地域の企業をもっと知りたい」大学生と「自社の魅力をもっと発信したい」地元企業をつなぐと、「課題解決ラボ」や「就活ガイド」の発行などを、神戸新聞社と兵庫県が中心となり行っている事業です。

中でも、「Mラボ課題解決ラボ」は、その中核事業であり、大学のゼミ単位で調査研究を行い、その成果を公開プレゼン大会で競うものです。

平成28年度は、企業としてファミリア、コーベビー、兵庫県手延素麺協同組合、ドンク等の10企業、それに1企業につき2チームということで、神戸大学、兵庫県立大学等の17ゼミ20チームが参加して行われました。新商品開発やマーケティング戦略など中小企業が抱える経営課題について、学生が担当教員の指導を受けながら、学生の視点で解決に取組み、10月29日に、最終提案を神戸ハーバーランドスペースシアターで披露しました。グランプリには、「就活ネイル」(対象企業:TAT)を提案した甲南大学西村ゼミが、準グランプリには新電力への乗換のビジネスモデル(対象企業:洗陽電気)を示した神戸大学南ゼミが選ばれました。



工学フォーラム

平成28年11月28日、神戸商工会議所会館で、「工学フォーラム2016」が開かれました。産(産業界)・学(神戸大)・官(官公庁)・金(金融業界)の情報交換と交流を通じて、地域に根ざしたコミュニティづくりを目指したものです。地元企業をはじめ、大学関係者合わせて約350人が、当日参加しました。

理工系学生の地元就職の第一歩はまず、地元企業を知ることからはじめます。フォーラムは、大学研究室と地元企業の出会いと技術共創の気づきの場として、位置づけられ、科学技術イノベーションにつながる事が期待されています。

会場には、展示ブースが設けられ、約100件の研究成果を前に、企業と大学関係者の交流が深められました。

開催日 2016年11月28日(月) 12:30~19:30

場所 神戸商工会議所会館



神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ

創造と人材育成の研究交流拠点として、平成28年10月にJR 篠山口駅構内に「神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ」が開設されました。ここでは、特に、若者の起業・継業支援や、移住・定住促進を目的とした事業に重点が置かれています。その具体的なプログラムの一つとして「篠山イノベーターズスクール」が開講しており、総勢19名が新しい地域ビジネスの創出に挑戦しています。

農村イノベーションラボにおける取り組み

1 地域創造研究

農村地域の課題を解決し、新しい価値を生み出すような研究をおこないます。大学と地域の人や資源のマッチング、共同研究のコーディネート、他、基盤的な調査研究から、アクションリサーチといわれる実験的な研究まで幅広くおこないます。

2 地域人材育成

篠山や農山村地域を舞台に活躍する実践者たち、地域の発展に貢献しているリーダーたちの学びや挑戦、成長をサポートします。また、「食農コブ教育(大学生向け)」や「篠山イノベーターズスクール」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援します。

「篠山イノベーターズスクール」について

「神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ」では、農村で新しい価値を見出し、仕事を創造する人々を育てる「篠山イノベーターズスクール」(篠山市主催)を、平成28年10月から開講しています。

本スクールでは、地域ビジネス実践者に師事してプロジェクトを進める「CBL(地域プロジェクト型学習)」と、農村地域での活動に必要な基礎的な知識を学べるセミナーをセットで提供しています。「篠山イノベーターズスクール」の第1期生は、合わせて19名です。それぞれ、新たなビジネスの創出への挑戦を行っています。本スクールの企画や講師等を、神戸大学の様々な分野の教職員が協力しています。

本年度の成果としてはこれからの部分が多い段階ではありますが、大きく以下の2点について成果が出てきています。

- 1) 地域内事業者の現れ
スクール受講生のうち、篠山市内に農地を借り、新規就農に取組む若者が出てきています。
- 2) 受講生グループによる法人化に向けた動き
スクールを受講したメンバーが自主的に集まり、地域情報の集約や発信に関わる事業を実施する団体の法人化に向けて、また法人の事業所として市内で閉校となった小学校の空き校舎を候補として検討しており、地元の良い刺激を与えているとともに、実現すれば地域内企業の創出と廃校活用の双方において効果が期待できます。

3 情報・活動支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどをおこなうとともに、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートもおこないます。平成28年度は下記セミナーを実施しました。

① セミナー「若者と地域創生—地域連携活動の到達点と課題—」の実施

開催日 平成28年11月13日 共催 農村計画学会西日本ブロック地区

② セミナー 農の学び場/Rural Learning Network「これからの観光と地域のあり方をどう考えるか?インバウンドの現場から」

開催日 平成29年1月28日



活動記録

年月日	領域	概要
H27.11.12	全体	平成27年度第1回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
H27.11.28	全体	COC+キックオフシンポ「つなぐ いかす 地域の力～みんなでつながる 子育て～」
H28.1.1	全体	統括コーディネーター及び領域コーディネーター(歴史と文化領域、自然と環境領域)着任
H28.1.7	全体	コーディネーターミーティング
H28.1.20	イノベーション	副統括コーディネーター(イノベーション)着任(兵庫県立大学)
H28.1.21	全体	コーディネーターミーティング
H28.1.23	自然と環境	篠山市・神戸大学地域連携フォーラム
H28.1.28	全体	COC+第1回シンポジウム
H28.1.30	イノベーション	産学公人材イノベーション関連シンポジウム「企業の社会貢献と地域経済の持続的発展ー環境・社会貢献・ガバナンスのイノベーションによるサスティナビリティの視点ー」(兵庫県立大学)
H28.1.31	歴史と文化	歴史文化をめぐる地域連携協議会
H28.2.1	子育て高齢化対策	領域コーディネーター(子育て高齢化対策領域)着任
H28.2.4	全体	コーディネーターミーティング
H28.2.6	子育て高齢化対策	保健学研究科地域連携センター報告会
H28.2.10	全体	なりわいカフェ「ボーダレスなジモトをイキル」
H28.2.14	子育て高齢化対策	災害時の要援護者に対する支援セミナー
H28.2.18	全体	コーディネーターミーティング
H28.2.24	全体	ひょうご神戸「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」に関する協定書を発行
H28.3.3	全体	コーディネーターミーティング
H28.3.5~7	全体	学内合同企業説明会・地元企業特集
H28.3.8	安心安全	震災復興学シンポジウムー災害対応力を備えた社会のあり方検証ー
H28.3.17	全体	コーディネーターミーティング
H28.3.26	イノベーション	医療・介護イノベーションセミナー(兵庫県立大学)
H28.4.1	安心安全	領域コーディネーター(安心安全な地域社会領域)着任
H28.4.8	自然と環境	実践農学入門、実践農学 受講説明会
H28.4.11	歴史と文化	地域歴史遺産保全活用基礎論A開始(第1Q、第2Q)(月曜1限)
H28.4.12	安心安全	阪神・淡路大震災開始(第1Q、第2Q)(火曜2限)
H28.4.15	全体	コーディネーターミーティング
H28.4.16	安心安全	オープンゼミナール
H28.4.22	自然と環境	実践農学入門開始(通年)
H28.4.22	自然と環境	実践農学開始(通年)
H28.4.27	子育て高齢化対策	第1回大学間会議(神戸大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
H28.5.14	安心安全	オープンゼミナール
H28.5.20	全体	コーディネーターミーティング
H28.6.3	全体	コーディネーターミーティング
H28.6.6	全体	第2回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
H28.6.18	安心安全	オープンゼミナール
H28.7.8	全体	コーディネーターミーティング(遠隔会議)
H28.7.15	全体	コーディネーターミーティング
H28.7.16	歴史と文化	大学COC+シンポジウム「地域歴史遺産としての怪異伝承～『尼崎百物語』を起点に～」(園田学園女子大学)
H28.7.16	安心安全	オープンゼミナール
H28.7.29	子育て高齢化対策	第2回大学間会議(神戸大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
H28.8.5	全体	神戸新聞社Mラボ事業「課題解決ラボ2016」中間発表会
H28.8.20	安心安全	オープンゼミナール
H28.8.22	全体	コーディネーターミーティング

年月日	領域	概要
H28.9.12	歴史と文化	地域歴史遺産活用演習(篠山市) (~9/14)
H28.9.17	安心安全	オープンゼミナール
H28.9.23	全体	コーディネーターミーティング
H28.10.3	自然と環境	神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ開所式
H28.10.7	歴史と文化	地域歴史遺産保全活用基礎論B開始(第3Q、第4Q)(金曜1限)
H28.10.7	自然と環境	兵庫県農業環境論開始(後期)(金曜3限)
H28.10.12	全体	平成28年度第1回COC+推進委員会
H28.10.15	安心安全	オープンゼミナール
H28.10.15	子育て高齢化対策	「子育て高齢化対策」領域シンポジウム 神戸大学・神戸市看護大学・園田学園女子大学3大学合同報告会「プラットフォーム」
H28.10.15	子育て高齢化対策	第3回大学間会議(神戸大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
H28.10.15-16	歴史と文化	まちづくり地域歴史遺産活用講座
H28.10.20	全体	仙台市宮城野区役所との意見交換
H28.10.24	全体	コーディネーターミーティング
H28.10.26	全体	ハッカに秘められた巨大商社のDNA ~灘区・鈴木薄荷の過去と今~
H28.10.27	全体	帯広畜産大学との意見交換
H28.10.29	全体	神戸新聞社Mラボ事業「課題解決ラボ2016」最終発表会
H28.11.1	全体	なりわいカフェ「暮らしとつながる働き方」
H28.11.8	歴史と文化	まちづくり地域歴史遺産活用講座オプションプログラム(11/8、15、29)
H28.11.12	歴史と文化	地域歴史文化フォーラム
H28.11.19	安心安全	オープンゼミナール
H28.11.28	全体	コーディネーターミーティング
H28.11.28	全体	工学フォーラム2016ー「もの・こと・ひと・まち」ー
H28.11.29	全体	公開シンポジウム「『べっぴんさん』の経営学」
H28.12.10	イノベーション	医療・介護イノベーションセミナー(兵庫県立大学)
H28.12.10	安心安全	熊本地震復興支援まちづくりシンポジウムー地域社会の復興に向けてー
H28.12.11	安心安全	真野地区と鷹取駅をめぐるまち歩き会
H28.12.17	安心安全	オープンゼミナール
H28.12.19	全体	コーディネーターミーティング(遠隔会議)
H28.12.19	歴史と文化	領域テキスト執筆者会議
H28.12.26	全体	コーディネーターミーティング
H29.1.21	自然と環境	篠山市・神戸大学地域連携フォーラム
H29.1.21	安心安全	オープンゼミナール
H29.1.26	全体	コーディネーターミーティング
H29.1.27	全体	COC+第2回シンポジウム～〈地域創生〉を育む環境づくり～
H29.1.28	子育て高齢化対策	保健学研究科地域連携センター報告会
H29.1.29	歴史と文化	歴史文化をめぐる地域連携協議会
H29.2.22	子育て高齢化対策	神戸市看護大学実習報告会
H29.2.1	子育て高齢化対策	第4回大学間会議(神戸大学、神戸市看護大学、園田学園女子大学)
H29.2.4	安全安心	オープンゼミナール
H29.2.12	子育て高齢化対策	災害時の要援護者に対する支援セミナー
H29.2.13	全体	コーディネーターミーティング
H29.2.16	歴史と文化	地域歴史遺産活用演習(三木市) (~2/18)
H29.3.5-7	全体	学内合同企業説明会・地元企業特集
H29.3.10	全体	コーディネーターミーティング
H29.3.18	安全安心	オープンゼミナール
H29.3.23	全体	平成28年度第2回COC+推進委員会